

おもちゃ図書館からの発信

おもちゃがつなぐ人と人

おもちゃの
図書館

育成ハンドブックNo.74

2011年2月発行

活動と資金



「あそぼ」

財団法人 日本児童福祉協会

活動と資金

ボランティアは、無報酬・手弁当とされています。でも、いざ活動しようとする、やはり資金が必要です。会場費やおもちゃの購入、イベント開催など、どうしても資金が要ります。そのための資金確保の方法はいろいろあります。目的に合わせた方法で、資金を確保し、さらに充実した活動をして参りましょう。

■ もくじ

もくじ	2
活動を豊かにするために	
埼玉県 戸田市おもちゃ図書館グループびっくりにばこ 青塚 和子	3
「じぶんの町を良くするしくみ。」	
中央共同募金会 企画広報部 阿部 陽一郎	8
活動資金の確保	
富山県 氷見市 おもちゃ病院たんぽぽ	10
社会福祉協議会と協力して	
岐阜県 白川町おもちゃ図書館ありす 荒川 理佳	11
おもちゃの図書館の資金づくり	
岡山県 ますだおもちゃの図書館 弘津 憲子	12
助成金の活用と音楽療法	
宮城県 つくしの会おもちゃ図書館 中村 喜恵	13
手作りおもちゃ東西南北	
タオルで作るゾウさん 札幌市 西区おもちゃ図書館たんぽぽの会	14
情報スクラップ	
愛につつまれて ～INCLUSION～ 試写を見て	15

表紙の絵	今村 圭吾「あそぼ」
裏表紙の絵 (上)	鶴田 和也「お母さん」
(下)	松崎 要「ちょうちょう」
	福岡県 おもちゃとしょかんゴリリンクラブ

活動を豊かにするために ～助成事業の活用～

埼玉県 戸田市おもちゃ図書館グループびっくりばこ 青塚 和子

子どもが、おもちゃで無心に遊んでいて声をかけられないような時、顔いっぱいの笑顔を見た時、楽しい声を聞いた時は嬉しいものです。もっと楽しさを体験させてあげたいと思うことでしょう。

その、楽しい体験を充実させるために必要なこととして、ボランティアや家族のための学習会（研修会）への参加や開催。活動を同じくするおもちゃ図書館との、市町村、県、地区、全国レベルのネットワークへの参加。他の活動をしているグループとの協働などが挙げられます。どれも会費・参加費・交通費・経費等が必要になってきます。

おもちゃ図書館活動を豊かにするために、何かをしたいとアイデアを出し、実施の準備に取りかかり始めると、費用が発生してくることがほとんどのことでしょう。そしてその費用は、参加費をいただいたり、グループの活動資金から支出したり、バザー収益を当てたりとやり繰りをしていることと思います。

しかし、ちょっと大きな金額は、個人、グループ、参加者負担では賄えないことも出てきます。そんな時は、助成金等を活用してみませんか。また、助成事業への申請は、自分たちの活動を広く知ってもらえるというメリットもあります。

次のページより助成事業への申請について、具体的な手順を紹介します。

1. 計画をたてる

会議をもち、事業計画、予算を立て、計画をきちんとつくりましょう。

会則や規約は、助成を受ける時に必要な書類となることもありますので整備しましょう。

2. 情報収集

資金援助をしてくれる団体・組織を探しましょう。

活動拠点の社会福祉協議会、ボランティアセンター、市民活動支援センターなどが相談にのってくれます。また、様々な情報も提供してくれます。おもちゃの図書館全国連絡会からも情報が得られます。

パソコンで調べる時は、〈助成〉・〈助成金〉、〈表彰〉、〈財団〉・〈福祉財団〉、〈〇〇協会〉、〈市民活動支援金〉、〈基金〉・〈社会貢献基金〉などを頼りに検索してみてください。

また、地元の企業、ロータリークラブ、ライオンズクラブへも積極的に活動のお知らせやイベントのご案内等でアピールしてみてください。

3. 検討

申請書を取り寄せたら、助成の対象となる計画かどうか、みんなで検討しましょう。

助成事業が対象とする活動内容、使途項目の確認は重要です。また、多額の立て替えを個人がしないように、実施しようとしている活動の時期と、助成金が手元に届く時期（前払い・一時払い・完了払い）に開きがありすぎないか？申請団体の一部負担金はあるか？ないか？等、実施要領をよく読み、申請書類の作成時に困らないよう、注意（留意）事項を確認します。

4. 申請

取り寄せた申請書に、必要事項を記入します。申請先から問い合わせが来た時に答えられるよう、申請書類の写し(コピー)の保管をしましょう。また、印鑑の捺印(代表者印)を忘れずに！

申請書に推薦文の記入が必要な場合があります。そのお願い(依頼)先は、行政(市・町・村)や地元の社会福祉協議会が多いので、日頃から地元の自治体や社会福祉協議会等には、自分たちの活動を理解してもらうよう良い関係作りを心掛けましょう。

また、申請書への推薦者の印鑑は、代表者(市長や社会福祉協議会会長)ではなく担当者でも良いとある場合でも、担当者が上司の決裁を仰ぐので、日数に余裕を持ってお願い(依頼)をする必要があります。

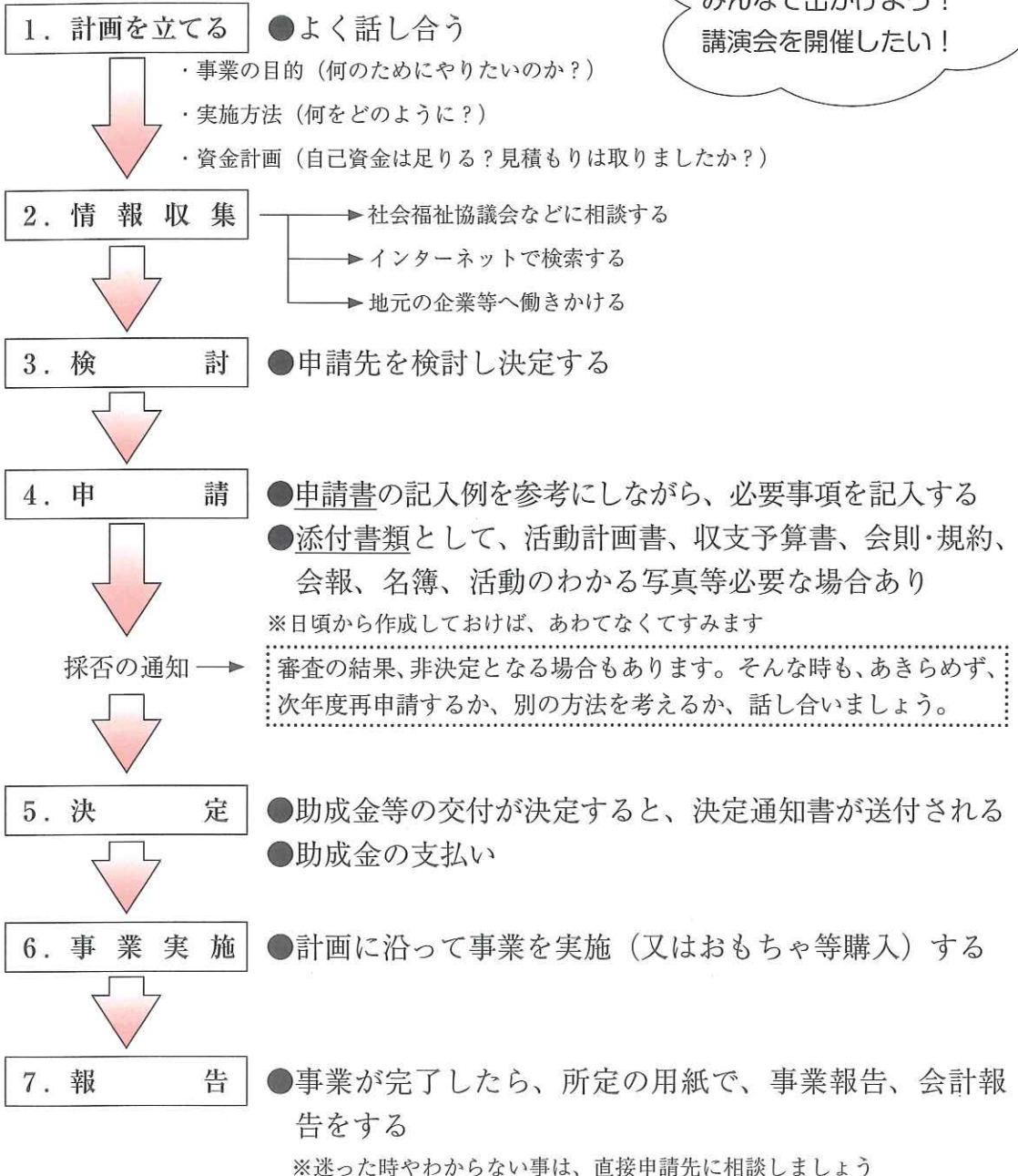
最近では、説明会や書類提出と合わせて、プレゼンテーションを求められる場合があります。ボランティア仲間で、得意分野を担当し合い、思いを伝えましょう。

添付する書類には、活動計画書(年度の活動報告書)、収支予算書(決算報告書)、パンフレット、会報、会則・規約、役員名簿・会員名簿、活動の様子が分かる写真や紹介記事等があります。日ごろから活動の様子を記録としておきましょう。

助成事業申請の流れ

～活動を豊かにしたい～

おもちゃが欲しい！
みんなで出かけよう！
講演会を開催したい！



「じぶんの町を良くするしくみ。」～共同募金の取り組み

社会福祉法人中央共同募金会 企画広報部副部長 阿部陽一郎

○共同募金の意味と歴史

赤い羽根共同募金は、民間の運動として戦後直後の1947年（昭和22年）に、市民が主体の取り組みとしてスタートしました。当初は戦後復興の一助として、戦争の打撃を受けた福祉施設を中心に資金支援する活動としての機能を果たしてきました。

その後、「社会福祉事業法」という法律をもとに「民間の社会福祉の推進」に向けて、社会福祉事業の推進のために活用されてきました。その後、平成12年社会福祉法に改正の際には、共同募金の目的が新たに「地域福祉の推進」と位置づけられました。

現在では、少子高齢化による人口減少社会を迎え、地域のありようが大きく変容しています。地域が抱える課題の質も変化し、例えば最近では、災害、高齢者や子どもを狙った犯罪、家庭内暴力や児童虐待、不登校、社会的孤立や自殺の増加などが連日報道され、地域における新たな問題が顕在化しています。また、地方分権と市町村合併が進み、本格的な地域福祉の展開と充実が急務とされる中、NPOなど新たな地域活動の担い手が登場してきました。

中央共同募金会では、共同募金創設60年を契機に、こうした、今日の社会情勢にマッチした新たな共同募金のあり方をさぐるべく、企画・推進委員会を設置し、「共同募金改革」の協議を行い、平成19年5月に、同委員会から、『地域をつくる市民を応援する共同募金への転換』と題する答申が出され、現在中央共同募金会と47都道府県共同募金会では、この答申に沿った共同募金改革に取り組んでいます。

赤い羽根共同募金は、市民自らの行動を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」を目指し、助成の審査をはじめ市民参加の市町村共同募金委員会の設置、寄付者・募金ボランティア・助成の受け手（活動団体）が一同に会して地域の抱える課題解決への活動を紹介し合うパートナーミーティングなど、地域の課題解決のため、有効な活動への助成を進め、地域の福祉力を醸成する循環型の活動が各地で進められています。

お陰さまで、平成21年度の全国の募金総額は、約201億4千万円もの善意が寄せられました。

○共同募金の仕組み

共同募金の特徴は、地域ごとの使い道や集める額を事前に定めて、募金を募る仕組みです。これを「計画募金」と呼び、「助成計画」を明確にすることにより、市民の理解と協力を得やすくしています。集まった募金の約70%は、募金をいただいた地域で使われています。残りの30%は、みなさんの住んでいる市区町村を超えた広域的な課題を解決するための活動に、都道府県の範囲内で使われています。

また、大規模な災害が起こった際のそなえとして、各都道府県の共同募金会では、募金額の一部を「災害等準備金」として積み立てています。この積み立ては、大規模災害が起こった際に、災害ボランティア活動支援など、被災地を応援するために使われています。

共同募金の助成は、おもちゃ図書館をはじめ、高齢者サロンの運営や点訳ボランティアなど草の根のボランティア活動の費用から、障がい者作業所の車の整備・社会福祉施設の改修まで、さまざまな民間社会福祉活動を支援しています。年間約7万件の市民が担う地域福祉活動を応援しています。詳細は、中央共同募金会のホームページ内のデータベース「はねっと」をご覧ください。みなさんの町での使いみちを公開しています。

じぶんの住む町が好き、だから、ずっと住み続けたい町。そんな気持ちを、ささえるしくみが赤い羽根。共同募金運動は、年間200万人といわれるボランティアの皆さんにより支えられています。みなさまの1層のご理解をいただければ幸いです。



活動資金の確保 ～共同募金会への申請～

富山県 氷見市 おもちゃ病院たんぽぽ

氷見市ボランティア総合センターが、平成21年度に行った『おもちゃのお医者さん育成講座』がきっかけとなり、平成22年4月から『おもちゃ病院たんぽぽ』が立ち上がりました。

メンバーは、『何か役に立ちたい』『子どもたちに、物を大切にする事を伝えたい』という思いで活動をしています。

たんぽぽを立ち上げる中で、課題としてでてきたのが『活動資金をどう確保するか』でした。初年度は、立ち上げ間もないボランティア団体を支援する助成金がありました。『次年度からどうしていけばよいらるか』という不安がありました。ボランティア総合センターへ相談し、いくつかの助成金を紹介していただいた中から、赤い羽根共同募金へ申請することにしました。理由として、地域をよくする活動に助成するという主旨や、氷見市共同募金委員会の助成事業では活動年数や実績を問わないということ、そして、共同募金の助成金を頂くことになると、助成を受ける団体等が広報されるので募金する市民に広く知っていただけるのではないかと思い申請しました。氷見市共同募金会からは、「団塊世代の活動や次世代の育成を視野にいたした活動である」と評価され内定をいただきました。

『おもちゃ病院たんぽぽ』の活動は、毎月第2土曜日に行っており、市内の子供たちやその保護者が壊れたおもちゃを持って来院しています。その他にも、おもちゃの図書館、氷見市社会福祉協議会、氷見市子育てセンターや保育園等市内の子どもに関わる施設のおもちゃの修理も行っています。

おもちゃの図書館からは、壊れて使われていなかったおもちゃを数点お預かりし、活動の中で治しました。『再び遊べるようになり喜んでいる』と職員より感謝の言葉をいただきましたが、喜んでる様子を聞かせてもらった私たちのほうも、笑顔があふれました。

助成金を頂くには苦勞する面もありますが活動資金が確保されることは、グループの成長につながると考えるようになりました。



社会福祉協議会と協力して

岐阜県 白川町おもちゃ図書館ありす 荒川 理佳

私が住む白川町には、「おもちゃ図書館ありす」があります。白川町社会福祉協議会からの働きかけで始まった、出来て10年のサークルです。今は、20人の小学生以下の子供を持つママさん達で活動しています。

月に3～4回、土曜日の午前が開館日です。又、町内の乳幼児学級や、子育て支援センターからの依頼で、年に15回程、移動おもちゃ図書館として出向いています。その他、社会福祉協議会と協力して、イベントやバザーなども行っています。

平成20年に、私達の「おもちゃを増やしたい」という思いを知っていた社会福祉協議会から、大和証券福祉財団助成金についての話がありました。メンバーで話し合った結果、思い切って申請をしてみようと決めました。申請金額の上限が決まっていなかったため、大型おもちゃといつも一緒に活動しているおもちゃドクターの工具なども購入したいと考えました。

申請書類の記入は慣れないことで戸惑っていましたが、いつも一緒に活動を考えて下さっている社会福祉協議会の担当の方に相談したところ、「小さいお子さんのいる方に負担はかけられない」と言って下さり、申請書の作成をしてくれました。

申請はしましたが、助成をいただけるとは思っていなかったもので、まさかの決定でした。助成金を受け、欲しかった大型おもちゃ「ヒップホップジャンパー」とおもちゃドクターの活動に必要な工具などを購入する事が出来ました。

今では、「ヒップホップジャンパー」は、お祭りや移動おもちゃ図書館で、子供たちに大人気のおもちゃとなっています。

小さな町のおもちゃ図書館ですが、助成金を頂いたおかげで、潤い、活気づいて感謝しています。

今後はサークルメンバーの減少、利用者の減少という別の課題も乗り越えて、支え合い、存続していきたいです。

おもちゃの図書館の資金づくり

島根県 ますだおもちゃの図書館 弘津 憲子

私たちが益田市に『おもちゃの図書館』の開設を提言しても、行政は資料データがない中では中々進みませんでした。

お金も、アイデアもないスタートでした。そこで一般公募の『町づくり』コンクールの募集が有ることを知り、読んで貰えるだけでも良いかな？と思い一般の部に応募しました。今まで作文等書いたことも無いのにびっくりです。一般の部『最優秀賞』に入賞しました。発表式にて、また、びっくり！広報にと賞金3万円をいただきました。このまま行政が動いてくれなくても、前進するしかない…と賞金を資金に開設準備に動き出しました。

場所・メンバー・周知の方法 etc…行政との折衝の中でシルバー人材センターの大広間（100畳）を借りる事ができました。毎月第2・第4土曜日10時から15時まで開館することとし、平成11年11月24日にオープンしました。記念講演は島根女子短期大学教授・山下由紀恵先生でした。障害のある・なしに関わらず利用できる居場所づくりのスタートでした。お金が無くては進まない事があるのが現実です。まず地域のライオンズクラブの支援、行政機関、新聞社等にご協力いただきながら、運営しましたが、平成13年6月に子育て支援センターへの移設に向けて、遊具・備品の設備設置の為、県への働きかけを続けました。その結果、オープン時には棚、本箱、テーブル等の協力を得ることが出来ました。その後は、地域のお祭りやイベントにバザーで参加して、少しずつ資金を作りました。安い食べ物、かわいい髪飾り、マスコット等の売れ筋を試行錯誤しながら行ってきました。バザー参加については、手づくり絵本の会が制作を助けてくれています。

大きな研修会参加などには、社会福祉協議会に助成金申請をして、旅費、宿泊の援助としました。

地域で活動することで周知され、地域に根付いている事で市民権？を得たと思っています。これからも色々と難問、資金不足もあろうと思いますが、遅々たる歩みであっても良いかな？出来る範囲内で進行中です。

助成金の活用と音楽療法

宮城県 つくしの会おもちゃ図書館 中村喜恵

こんにちは、わたしたちは開館10年を迎えたおもちゃ図書館です。

障がいのある子もない子も春の日ざしを浴びて伸びるつくしのように育ってほしいという願いのもと、毎月の活動を続け、加えてコンサートや余暇支援など多彩な活動を展開してきました。

会はボランティアで運営し、趣旨に賛同する約200名の会費及び社協等助成金で活動しています。また、各種助成金の申請にも応募しこれまで大和福祉財団、みずほ教育福祉財団の協力をいただき、高齢者施設への移動おもちゃ図書館実施のためのおもちゃ購入やスイッチを活用したおもちゃの購入をしてきました。

一昨年から音楽療法に取り組み、赤い羽根共同募金会、キリン福祉財団から助成金の協力をいただきワークショップを開催しました。これらは目的に合う対象者ごと（障がいのある方、幼児、高齢者）の開催により、療法の効果をそれぞれが実感できる体験となりました。特に障がいのある方を対象としたワークでは就学前の子どもたちの参加が多くみられ、口コミで遠方からおいでになった方もいました。また、参加者の中には、これをきっかけにおもちゃの図書館の存在を知り、通常の活動にも顔をだすようになった親子も出てきました。

わたしたちの図書館は長く続けていますが、宣伝活動があまり上手ではなく常々必要な人におもちゃの図書館のことを知って欲しいと思っていました。そんな中、助成金を活用した大きな事業への取り組みは参加者への効果だけでなく会の宣伝や活動の活性化をもたらしたものとなりました。音楽療法から“笑顔と輝き”という宝物を得、これからの活動をますます充実させていきたいと思っているこの頃です。





手作りおもちゃ東西南北

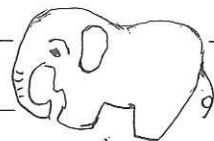


札幌市 西区おもちゃ図書館たんぽぽの会 池高かづ子

西区おもちゃ図書館たんぽぽの会は、毎月第1、第3火曜日の午前10時～午後2時まで身体障がい者福祉センター内で開催し、21名のボランティアで運営しています。特に、日本の伝承行事を大切に伝えています。

実は、札幌の動物園にはゾウさんがいません。でも、子どもたちはゾウさんが大好き！タオルで作ってクリスマスプレゼントにしました。「名前をつけて、抱っこしています。」とママの声。(毎年、クリスマスプレゼントはボランティアの愛情溢れる手作り品なので、子どもの宝となっています。)

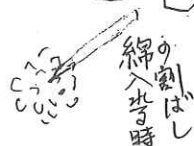
【おもちゃ名】タオルで作るゾウさん



【準備するもの】

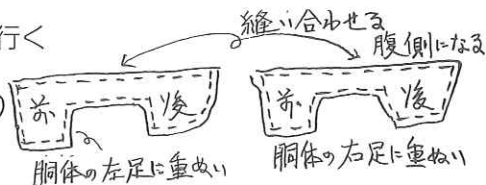
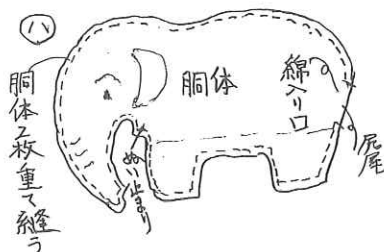
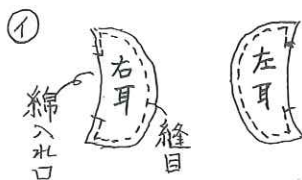
- ・タオル 35cm×80cm
- ・手芸綿 80g
- ・木綿糸 白、黒

- ・コードひも (尻尾) 15cm
- ・小ボタン (黒目) 2コ
- ・飾り、リボンテープ 少々
- ・縫い針



【つくり方】

- ①右耳2枚裁断し重ねて縫う
左耳も同様
- ②左右耳を縫い終ると表に返し綿を入り口からふんわりとつめる
入り口をこまかくまつり縫い
- ③胴体2枚裁断する
2枚合せて綿入り口の上の部分から鼻・口のところまで縫い止めとなる
- ④前・後足の内側部分2枚裁断する
- ⑤腹側になる部分を縫い合わせる
- ⑥開いて前後4本足の内側に重ねぬい合わせる
- ⑦表に返して、綿入り口より、少しずつ鼻先から形よく綿を詰める
- ⑧綿入り口を縫い合せながら尻尾をつけて行く
- ⑨左右の耳と目のボタンをつけ、まゆ毛と鼻のしわは、黒糸でアウトラインス⑩
タッチでかく
※頭にリボンで飾りつけする



■ 情報スクラップ ■ ■ ■ 映画紹介 ■

愛につつまれて ～ INCLUSION ～ 試写を見て

ひとは障がいがあっても、特別な場所ではなく、地域社会の中で、愛する人と普通の暮らしをしていくことを望んでいます。この映画はそんなごく自然な願いをもった6人の太鼓奏者たちの日常と活動を追ったドキュメンタリー映画です。

7歳の時に両親が離婚したのを契機に、知的障がいのある主人公岩本さんは、家族と離れて入所施設で暮らしていました。やがて施設のリハビリ的なクラブ活動で和太鼓と出会い、次第に技術が向上していくにつれ、人として自信が持てるようになります。そんな中、愛する人とも出会い、結婚します。お相手の女性も軽度の知的障がいがある方ですが、一般の会社で一生懸命働きながら子育てをしています。

言葉で言ったり書いたりするのは簡単ですが、知的発達障がいのある子どもが家族と離れて育つこと、夢中になれるものと出会えたこと、結婚のこと、日々の暮らし、子育て…どれ一つをとっても容易なことではありません。彼らの『ごく普通の日常』を支えているコロニー雲仙の人たちの思いの深さと支援の質の高さに頭が下がります。

たくさんの愛につつまれて、太鼓の技術は芸術性の評価が高まるほどにまで成長し、やがてプロ（瑞宝太鼓）として活動する道が開かれました。太鼓と向き合っている時の彼らは、真摯で素敵です。その表情は喜びに満ち溢れています。一方、家庭での「お父さん」としての顔も、これも本当に素敵でした。お父さんの太鼓の真似をしている幼い子供は、間違いなく父親に憧れ、父親を尊敬しています。そんな子育てがとてもほほえましく、幸せな気持ちにさせてくれます。ベースとなる地域社会のありよう、人と人との繋がり、いろんなことを考えさせてくれる映画でした。

制作：able映画製作委員会/DERECTORS SYSTEM 制作総指揮：細川佳代子

監督：小栗謙一 語り：萩原聖人 音楽：時勝矢一路

上映開始予定 2011年初夏 角川シネマ新宿 梅田ガーデンシネマ

全国順次ロードショー 前売り1,500円 申込みable制作委員会

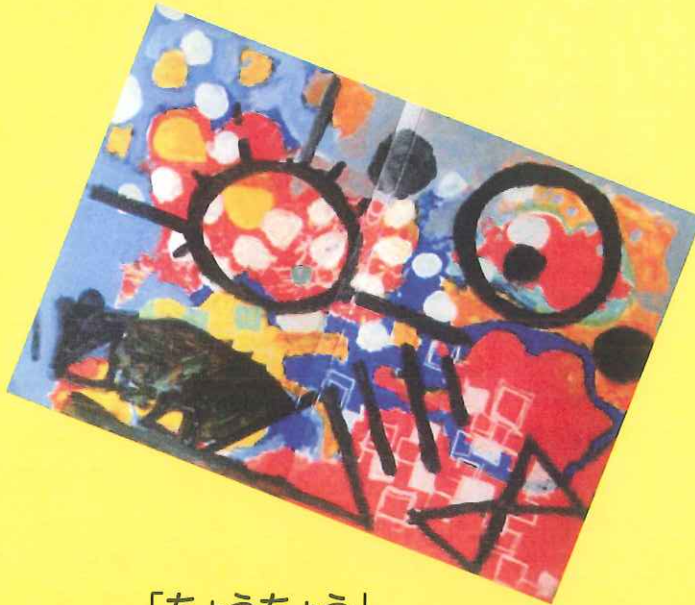
TEL 03-3500-5566 FAX 03-3500-3320 E-mail info@film-able.com

<http://homepage2.nifty.com/bokuumi/>

埼玉県 めだかおもちゃ図書館 山下 佳子



「お母さん」



「ちょうちょう」

育成ハンドブック No.74

発行 財団法人 日本児童福祉協会
〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-10-503
編集 おもちゃの図書館全国連絡会
〒103-0028 東京都中央区八重洲1-6-2 八重洲1丁目ビル8階
電話 03 (3272) 0072 FAX 03 (5299) 9011
E-mail: renrakukai@toylib.or.jp URL: <http://www.toylib.or.jp>

※お問合せはおもちゃの図書館全国連絡会へお願いします。